

第 26 回猪名川部会（2005.4.14 開催）結果報告		2005.5.6 庶務発信
開催日時：	2005 年 4 月 14 日（木）14：00～16：58	
場 所：	天満研修センター 9 階イベントホール	
参加者数：	委員 10 名（うち 1 名は他部会委員）、河川管理者（指定席）13 名、一般傍聴者 81 名	
<p>1．決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況点検項目、WG の設置、現地視察に関して意見や提案がある場合は 4 月 22 日までに庶務に意見を提出し、庶務がとりまとめて運営会議に諮る。 <p>2．報告の概要</p> <p>第 43 回運営会議結果報告、テーマ別部会の委員構成について</p> <p>庶務より、報告資料 1「第 43 回運営会議結果報告」、報告資料 2-1「部会所属構成一覧表」、報告資料 2-2「部会の委員名簿」を用いて報告がなされた。</p> <p>3．審議の概要</p> <p>部会の役割と進め方について、検討課題とWG 等の設置について</p> <p>猪名川部会の役割や検討すべき課題、委員会に設立を提案すべきWG のテーマについて、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な課題については全体委員会で議論するというのが今回の委員会の基本的なスタンスだ。地域別部会・テーマ別部会・WG では、全体委員会で円滑な議論をおこなうために、論点の整理を行って頂きたいと思っている。事業進捗点検項目に関しては、全体委員会で議論するのは難しいため、地域別部会で検討して頂きたい（委員長）。 ・部会に報告される進捗状況項目の選択は、河川管理者に任せっきりでよいのか。 年度始めには、昨年度と本年度の事業項目を示したいと思っている。年度中であっても、事業内容が変化があれば、その都度、報告する。また、委員会から頂いた意見に対しては、河川管理者の考え方を適宜示していく（河川管理者）。 ・課題を確認しながら部会を進めていくためにも、A 4 一枚程度で課題をまとめておく必要がある。また、猪名川の目標像を共有しておく必要もある。 ・猪名川部会では、治水が一番大事な問題。環境については自然環境委員会の検討内容を部会で説明してもらい、猪名川部会ではまずは治水と利水を中心に検討を進めていけばよいのではないかと。 猪名川下流の水質や流量低下等を鑑みれば、環境について議論すべきだ。 ・事業進捗状況項目への評価は、年度ごとに行うのか。より長いスパンで行うのか。 明らかなスケジュールを示している事業もあれば、環境関連の事業のように全体のスケジュールを示しつつ当面の事業について報告しているものもある。中長期のスケジュールが出せるものについてはできるだけ出していきたい。委員会からは区別なしに意見を頂きたい（河川管理者）。 ・事業進捗状況に対する河川管理者の自己評価もあった方がよい。 ・銀橋狭窄部の開削と余野川ダムを部会のテーマとして扱うべき。猪名川部会では、余野川ダムは効果がないという結論だが、それで議論を終えてよいのか。ダム中止の影響等についても議論をすべき。 ・ダムだけ議論するのではなく、多田地区の浸水被害をどうするかという問題を考えていく必要がある。ダムも代替案の 1 つ。他の代替案を含めて、どういう順番で議論を進めていくかが問題だ。 ・前期委員会で説明のあった代替案に関して、銀橋開削後になぜ下流の水位が上昇するのか、掘削コストの根拠や積算単価等についても検討課題として残っている。 ・猪名川部会では、多田地区や下流地域の浸水被害に関する検討（銀橋狭窄部の開削、河道掘削、余野川ダム等）について議論をする（部会長）。 <p>事業進捗の説明とその点検について</p> <p>河川管理者より、審議資料 1「河川整備計画進捗状況項目（実施）（調査・検討）」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。</p>		

治水-14-11「堤防補強（善法寺）」 実施項目

- ・堤防補強事業として、この地区を選んだ理由を教えてください。
地盤調査等の結果、右岸側が旧河川敷の跡で、浸透水や浸食に対して安全度が確保されていないことが判明し、この地区を選んだ（河川管理者）。
どのような地盤調査をしたのか等、河川管理者の判断基準マニュアルがあれば提供して欲しい。
淀川堤防補強委員会の資料をお送りする（河川管理者）。

維持-13-1「樹木の伐採と管理」 実施項目

- ・維持-13-1「樹木の伐採と管理」で、樹木の伐採や伐木を実施しているが、野鳥等の面から見てどうか。
河川の原野的生物相を維持するという観点からすれば、伐採した方がよい。
- ・維持-13-1「樹木の伐採と管理」は、流水阻害の解消が目的の1つだと思うが、同じ観点から、藻川の分派地点に堆積している土砂も除去した方がよい。

利用-9「迷惑行為の対策」 実施項目

- ・迷惑行為の対策に対して看板を設置して警告しているが、河川敷利用がどうあるべきかについても記載してもらえればよいと思った。

利用-6「河川保全利用委員会（仮称）」 調査・検討項目

- ・桂川の河川保全利用委員会では、河川敷の占有許可申請が出たものについて議論をしている。ゴルフ等の自由使用については議論をしていない。議論をすべきだ。

河川敷公園が河川の中でどうあるべきかについて占有機関等と議論をするのが第一だが、占有されていない地域についてもモデル的に実施してはどうかということを議論している。また、猪名川には自由使用の範囲で野球のグラウンド等として使われている部分もある。こういった箇所については利用実態を調査し、保全利用委員会で意見を頂こうと考えている（河川管理者）。
必要に応じて、保全利用委員会で自由使用についても議論をさせて頂きたい（河川管理者）。

その他の意見

- ・5年程度先の目標や優先順位が示されなければ、評価できない。全体像がわかるよう整理すべき。
できるだけ示していきたい。堤防補強については詳細な調査を行っている区間があり、その中で、どの区間で整備が必要なのか、どういう優先順位で整備を進めるのかを示したい（河川管理者）。

現地視察について

- ・従来の現地視察はダムの説明が主たるものだったが、導水トンネルやダム湖底の状況、河道掘削や堤防補強地点等、従来とは違う視点での視察が必要だ。
 - ・現地視察のポイントを委員会側から指定する必要もあるのではないか。それが時間的に難しいのであれば、現地視察のポイントをあらかじめ教えておいて頂きたい。
 - ・委員で意見交換をした上で現地視察を実施したい。視察ポイントを選んでおいて頂きたい（委員長）。
4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者2名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）
- ・過去の現地視察では、委員自身が専門分野について自ら説明することもあり、非常に有意義だった。今回の現地視察でも前委員の経験を活かすということも検討して頂きたい。
 - ・余野川ダムの現地に行ってきたが、箕面市道で盛土工事による通行禁止が行われていた。河川管理者は、事業中のダムについて、住民の生活上、防災上、やむを得ない場合を除いて、新たな工事には着手しないと約束しているが、ダム工事専用道路の建設や落石防止工事が行われており、不安だ。
北山筋関係の市道が併設している箇所の法面对策として、斜面が崩れないように対策をしている。
河川事業としては新たな工事には着手していない（河川管理者）。
 - ・河川敷利用のWGはどうするのか。河川敷では環境に配慮した利用が望ましい。猪名川や淀川下流では、ふるい分けが必要。部会で地元意見を吸い上げて、全体委員会に報告してほしい。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。